

第24回厚生科学審議会科学技術部会

－ 議 事 次 第 －

【日 時】 平成17年4月21日（木）15:00～17:00

【場 所】 厚生労働省 省議室（9階）

【議 題】

1. 平成18年度厚生労働科学技術政策について
2. 今後の中長期的な厚生労働科学研究の在り方に関する専門委員会中間報告について
3. 国の研究開発評価に関する大綱的指針の改定について
4. 独立行政法人医薬基盤研究所の設立等について

【配布資料】

- 資料1 平成18年度厚生労働科学技術政策について
- 資料2-1 今後の中長期的な厚生労働科学研究の在り方に関する専門委員会中間報告書概要
- 資料2-2 今後の中長期的な厚生労働科学研究の在り方に関する専門委員会中間報告書
- 資料3-1 国の研究開発評価に関する大綱的指針の概要
- 資料3-2 国の研究開発評価に関する大綱的指針（平成17年3月29日内閣総理大臣決定）
- 資料4 独立行政法人医薬基盤研究所の設立等について
- 参考資料1 厚生科学審議会科学技術部会委員名簿

平成18年度厚生労働科学技術政策について

平成18年度の厚生労働省の科学技術研究の推進の基本的考え方

ターゲット重点化

少子高齢社会の進展に対応しライフサイエンス研究を重点化

健康安心の推進

(健康寿命の延伸)

- (1) 糖尿病等の生活習慣病対策の推進
- (2) がん医療水準の均てん化
- (3) 生涯を通じた女性の健康
- (4) 介護予防の推進

健康安全の確保

- (1) 新興・再興感染症対策
- (2) 食の安心・安全の確保
- (3) 健康危機管理対策
- (4) 医療安全の確保

安全・安心で
質の高い健康
生活を実現

健康フロンティア 戦略の推進

先端科学技術の導入と、生活習慣病・介護予防研究等の推進により、明るく活力のある社会の構築と健康寿命の延伸

アプローチ改善

- (1) 政策目的志向型研究の進展
- (2) 効率的・効果的研究手法の開発
- (3) 人材育成

先端医療の実現

- (1) ゲノム科学・タンパク質科学・ナノテクノロジー等の応用
- (2) 先端医療の実用化、治験環境の整備の推進

科学技術研究に関する具体的な取り組み例について

健康安全の確保

新興感染症・人獣共通感染症への対応

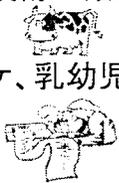
病原体の流入・発生 未知の病原体に対する、より迅速な
 ・ウイルス → ・検出法開発 → 臨床試験や治験等の速やかな実施
 ・細菌など → ・ワクチン開発など



健康安全の確保／危機管理の充実

食品のリスクを把握し、安全性を確保

有害物質(汚染物質・プリオン他)の検出技術の確立
 原因不明・未知の食品リスク(スギヒラダケ、乳幼児への影響他)の解明と評価



健康安心の推進

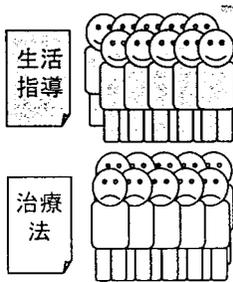
生活習慣病の予防や最適な治療法の開発



複数の危険因子が重なっている状態が...
 (メタボリックシンドローム)

心疾患や脳卒中等の重篤な病気を招く!

健康寿命の損失
 医療費の増大



大規模介入試験等を実施し、根拠に基づいた最適な予防・治療法を構築

健康の増進・医療費適正化

がん医療水準における均てん化及び先端のがん医療の実用化

- ・全国どこでも質の高い専門医療が受けられるような体制整備の推進
- ・臨床研究の推進による治療法を標準化し、全国へ普及促進
- ・新薬や新たな治療法等の医療現場への速やかな応用

医療の質の向上
 健康寿命の延伸

先端医療の早期実現

様々な先端科学技術の成果

ゲノム科学
 再生医療
 ナノテクノロジー
 など



臨床研究等の体制整備
 →
 研究重点化

1,2次予防・診断治療・創薬へ

疾病予防の方向
 早期診断
 治療法の最適化
 新医薬品・医療機器等の開発
 など



行政施策とリンクし
 全国に均てん

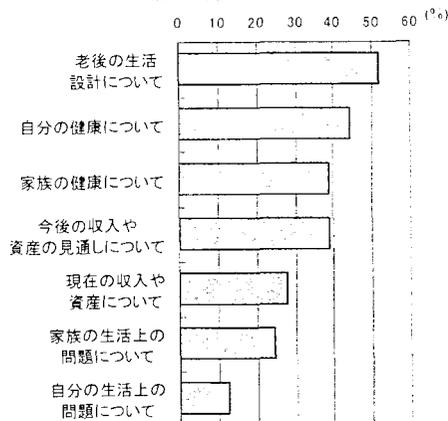
先端医療の実現

厚生労働科学技術研究の方向性について

ターゲットの重点化

少子高齢社会の進展に対応し
ライフサイエンス研究を重点化

平成16年度国民生活に関する世論調査より
(悩みや不安の内容)



国民の悩み
不安、要望

「老後の生活設計」
「健康」
「医療・年金等の
社会保障構造改革」
(内閣府調査)

国民のニーズに沿う最も効果的な領域は

「健康安心の確保」
「医療等持続可能な社会保障の構築」

健康フロンティア
戦略の策定

健康寿命の延伸
医療費の適正化
健康安全の確保

アプローチの改善

課題を解決するための
研究推進方策について

(1) 政策目的志向型研究の更なる
進展

【例】糖尿病患者を減少させ、重症化を防ぐ研究

→ 健康の増進・医療費適正化

(2) 成果に直結する効率的・効果的研究手法の開発

成果契約型事業の導入や大規模多施設共同研究の推進、連携施策群の活用など

→ 確実な研究成果の確保

(3) 人材の育成

これから特に必要とされる領域で、質の高い研究成果を創出できる人材の体系的な育成

→ 臨床研究の拡大等の
ニーズに対応

政策的に必要な科学研究を
戦略的に推進

健康フロンティア戦略の策定（健康寿命を伸ばす科学技術の振興）

（平成17年度～平成26年度）

我が国は超高齢化社会への道
10年後の平成27年（2015年）には、高齢者数が3300万人と予測
「明るく活力ある社会」を構築 と「健康寿命」の延伸へ

糖尿病・がん等の
疾病の罹患と死亡を減らす

要介護になることを防ぐ

働き盛り層
生活習慣病と心の健康

女性層
女性のがん

高齢者層
介護予防

健康寿命を伸ばす科学技術の振興
先端科学技術の導入と生活習慣病・介護予防研究の推進

健康安心の推進（健康寿命の延伸）

- 糖尿病等の生活習慣病対策の推進
- がん医療水準の均てん化
- 生涯を通じた女性の健康
- 介護予防の推進

先端医療の実現

- ゲノム科学・タンパク質・ナノテクノロジー等の応用
- 先端医療の実用化、治験環境の整備の推進

行政施策と連携

各種施策の総合的な効果により、

- 生活習慣病の死亡率・発生率の改善
- 要介護者の減少

等を目指す。